

古き良き時代を偲ぶ

# ナスタリジックコース

## コンセプトポイント

時の流れの中で、あるときは激しく、あるときは静かに変化してきた加古川の街並み。寺家町周辺に残る古き良き面影、歴史ある寺社、昭和の浪漫を感じる建造物。それらがわたしたちに語りかけるように、そっと佇んでいます。ノスタルジーな気分を味わえる路地裏へと出かけてみるのはいかがでしょうか？



### 1 寺家町

「寺家町」はJR加古川駅の西側一帯の大字名で、寺院がこのあたりに莫大な領地を所有していたことから、この名がつけられたと言われている。江戸時代には西国街道の宿場町「加古川宿」として栄えた。現在は寺家町商店街として賑わっている。

**チェックポイント** 姫路藩の藩役所であった陣屋や光念寺の白壁などに、古い街並みが残っている。



### 2 神田家洋館

日本毛織加古川工場敷地の南側に連なる古い商店街の一角に建っている洋館。この洋館の前にあった陶器店を平成15年に老朽化により取り壊したところ、建物の奥から現れた。洋館は、瀬戸物商を営んでいた神田家が応接施設兼倉庫として建てたもので、築年は大正期と推測されている。平成16年12月10日に国登録文化財に指定された。

**チェックポイント** 玄関の欄間を持つ木製ドアなど、全体的に初期の洋風建築の面影を残している。



### 3 ニッケ印南工場

大正8年から操業している印南工場には、イギリスからの輸入レンガによる工場棟・倉庫などが多数建てられている。当時としては珍しかった輸入レンガが、今では懐かしい雰囲気を出している。ノコギリ屋根の天窓からの光は、十分な光源がなかった操業当時、繊維の色の確認に最適だったという。

**チェックポイント** レンガを使った建造物からは懐古的な趣が感じられる。



### 4 ニッケ社宅倶楽部

ニッケ加古川工場が明治32年に同社初の工場として操業を開始した際、欧米から招いた技師のために建てられた加古川に現存する唯一の異人館。2棟あるうちの1棟は工場開設と同時期に建てられたもの、もう1棟は、明治末あるいは大正期に建てられたもの。

**チェックポイント** 戦前に作られた初期近代建築。改装もほとんど行われておらず、当時のままの雰囲気を残している。



### 5 加古川図書館

かつて金剛寺（こんごうじ）という寺院があった一帯に建てられ、昭和10年に加古川町公会堂として建てられた。完成当時は演劇や各種講演会が開かれたりと、文化の中心地だった。平成20年度に兵庫県景観形成重要建造物に指定された。

**チェックポイント** アールデコ風の幾何学模様デザインされたステンドグラスの大アーチ窓と、側面の連続アーチ窓やスクラッチタイル張りの1階正面部分などに趣がある。

**【凡例】**  
— モデルコース (約5.0km)  
1 ~ 5 コンセプトポイント  
A ~ D よりみちポイント



©That's & Trial 2010

